



東亜ディーケーケー株式会社
平成29年3月期第1四半期決算補足説明資料
(東証1部:6848)

平成28年7月

平成29年3月期第1四半期決算サマリー



- 海外売上高は中国向け輸出を中心に増進したが、国内需要の低迷に不動産賃貸事業の解約も重なり減収
- 収益は売上高の減少と売上原価率の上昇により減益
- 単月黒字化**82ヶ月**連続記録更新中(平成21年9月から6年10ヶ月)

(単位:百万円)

	H27.1Q 実績	H28.1Q 実績	前年同期比増減	
			金額	%
売上高	2,999	2,970	△29	△1.0
営業利益	124	89	△34	△28.1
経常利益	136	121	△14	△10.8
四半期純利益	35	27	△8	△23.1

計測機器事業

売上高2,913百万円(0.7%減)、セグメント利益253百万円(9.0%減)

- 国内は、基本プロセス分析計、ラボ用分析計及び部品が寄与したが、前年同期にあった上下水道用分析計の大口案件をカバーできず減収
- 海外は、前期から引き続き中国向け環境用水質計が好調に推移し増収
- 利益面は、売上高の減少と売上原価率の上昇により減益

不動産賃貸事業

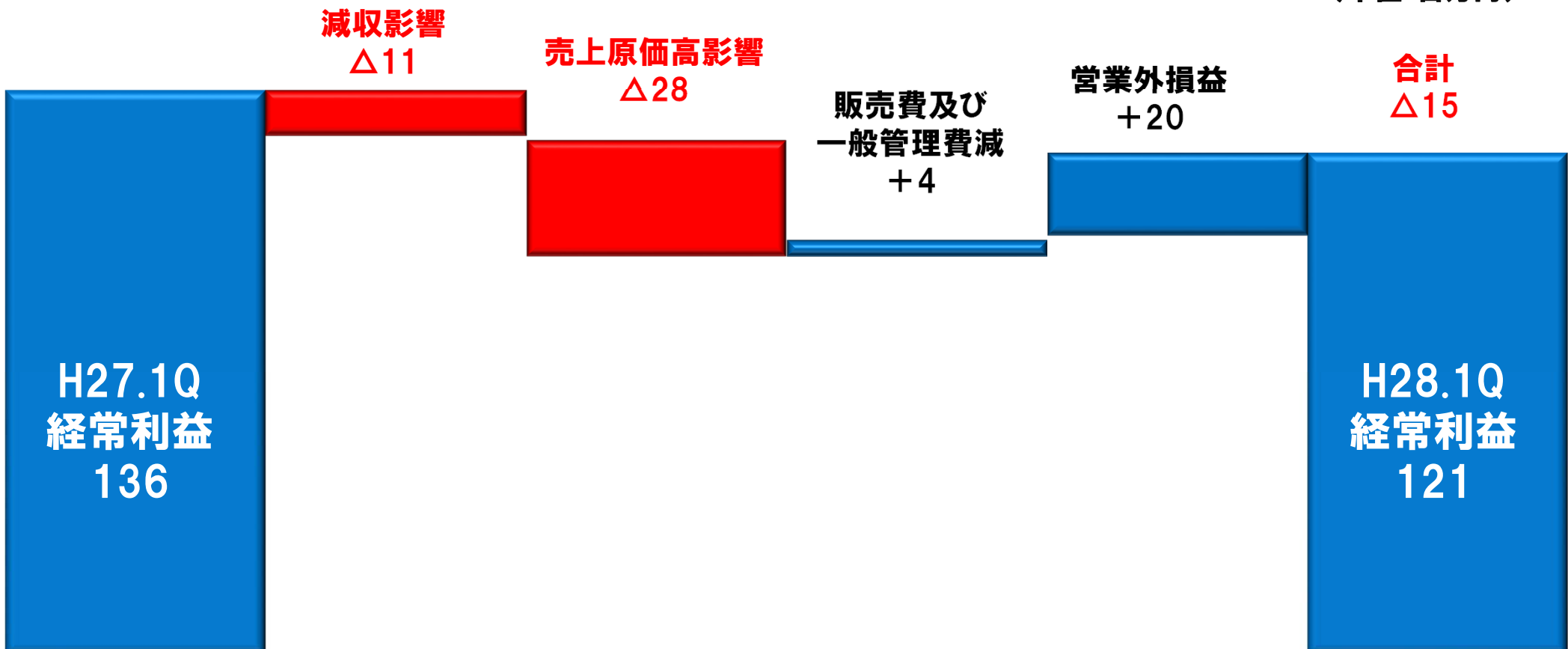
売上高56百万円(14.9%減)、セグメント利益30百万円(24.4%減)

- 狭山貸店舗の契約満了にともなう解約により減収・減益

第1四半期経常利益増減分析



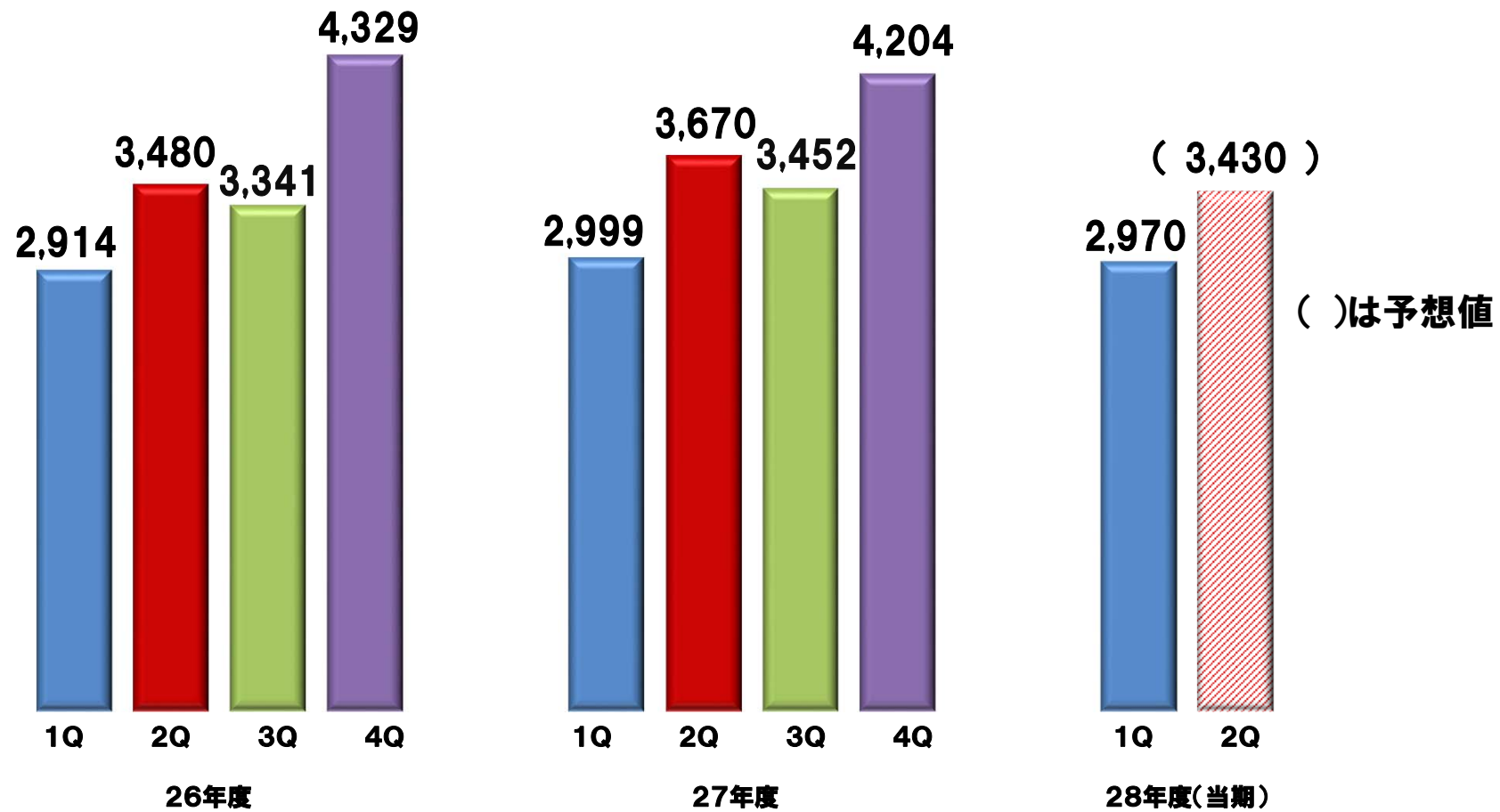
(単位:百万円)



四半期別経営成績（売上高）



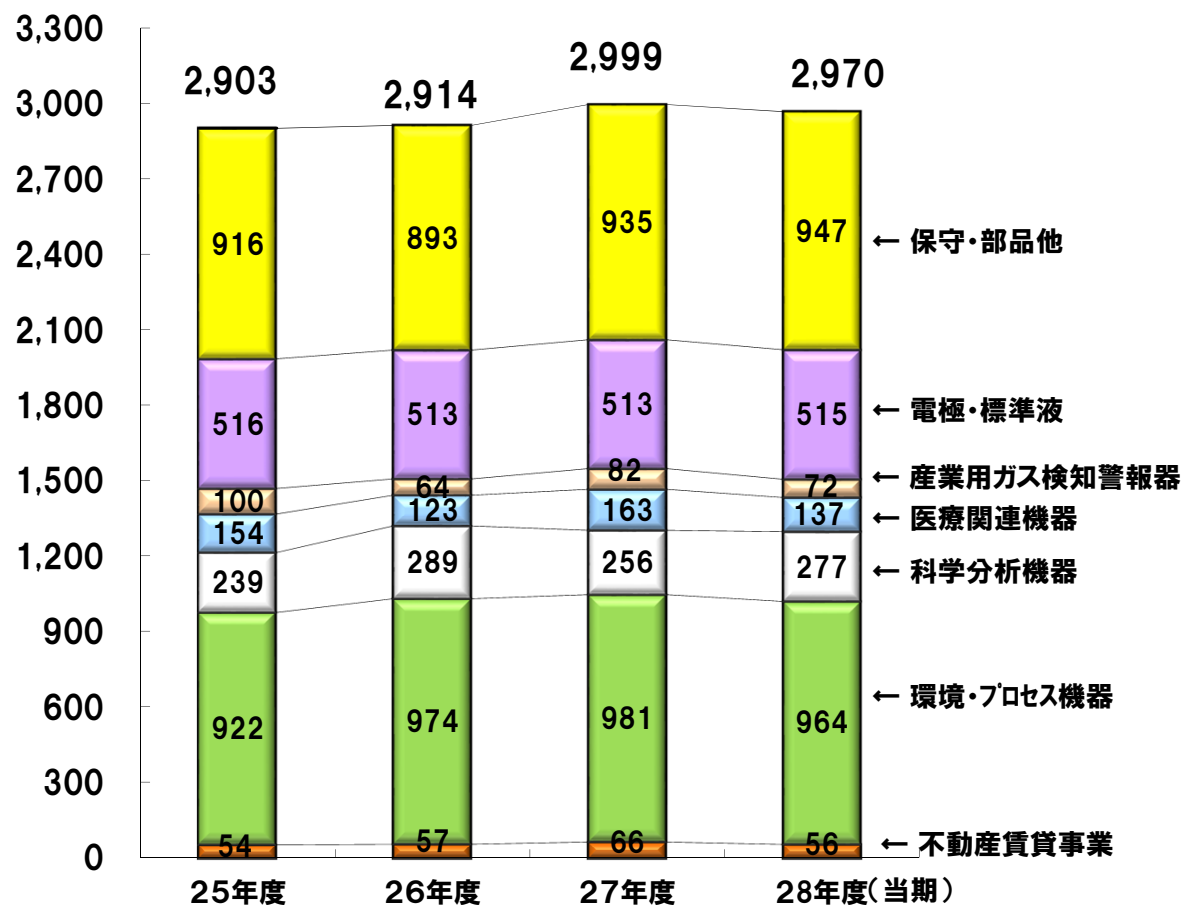
（単位:百万円）



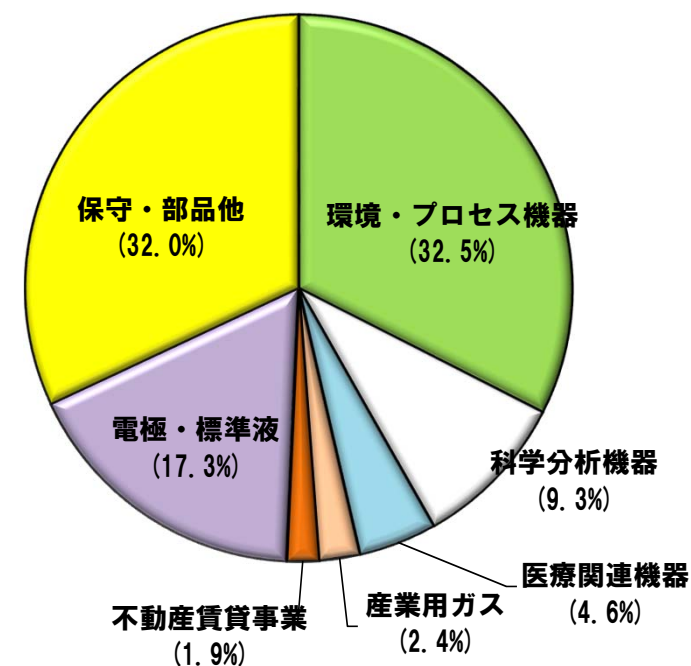
第1四半期売上高推移と構成比

売上高推移

(単位：百万円)



売上高構成比(当期)



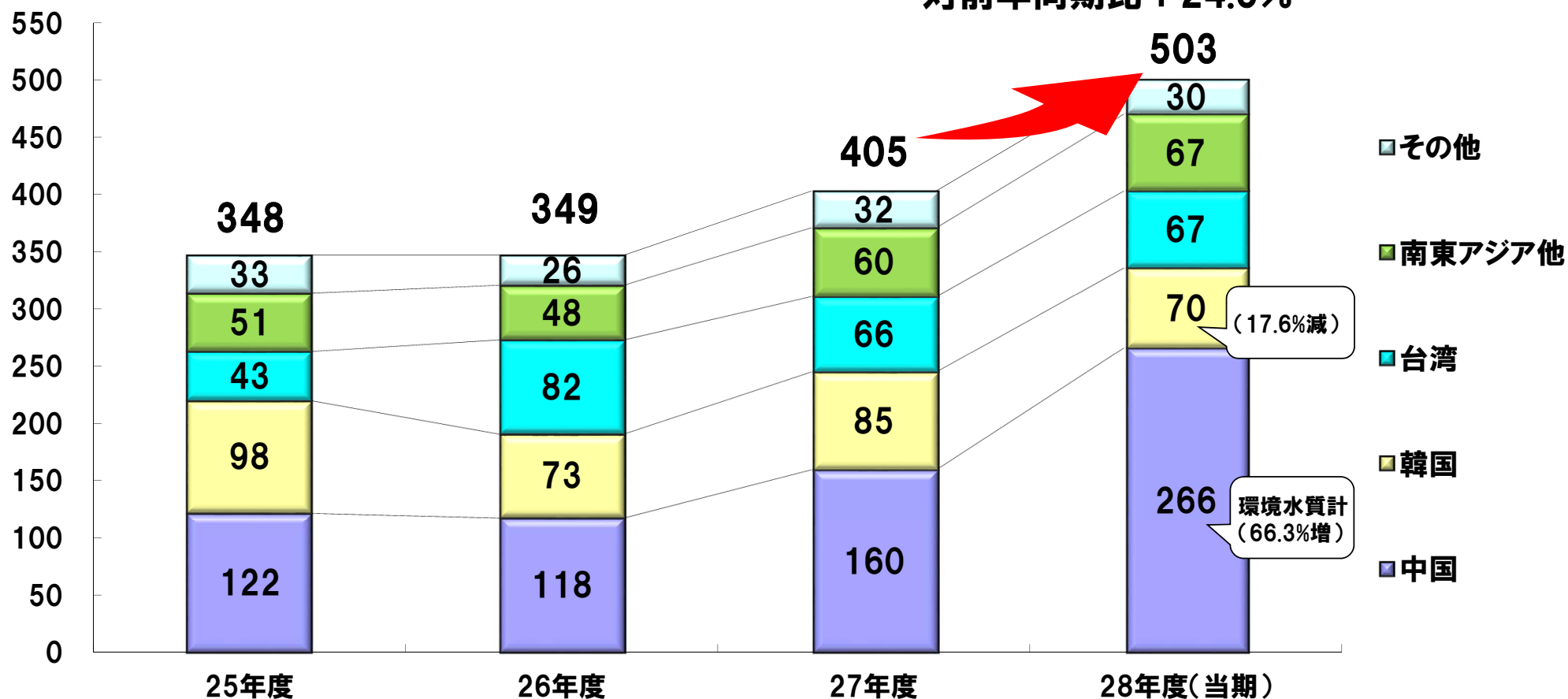
第1四半期海外売上高推移



(単位:百万円)

海外売上高推移

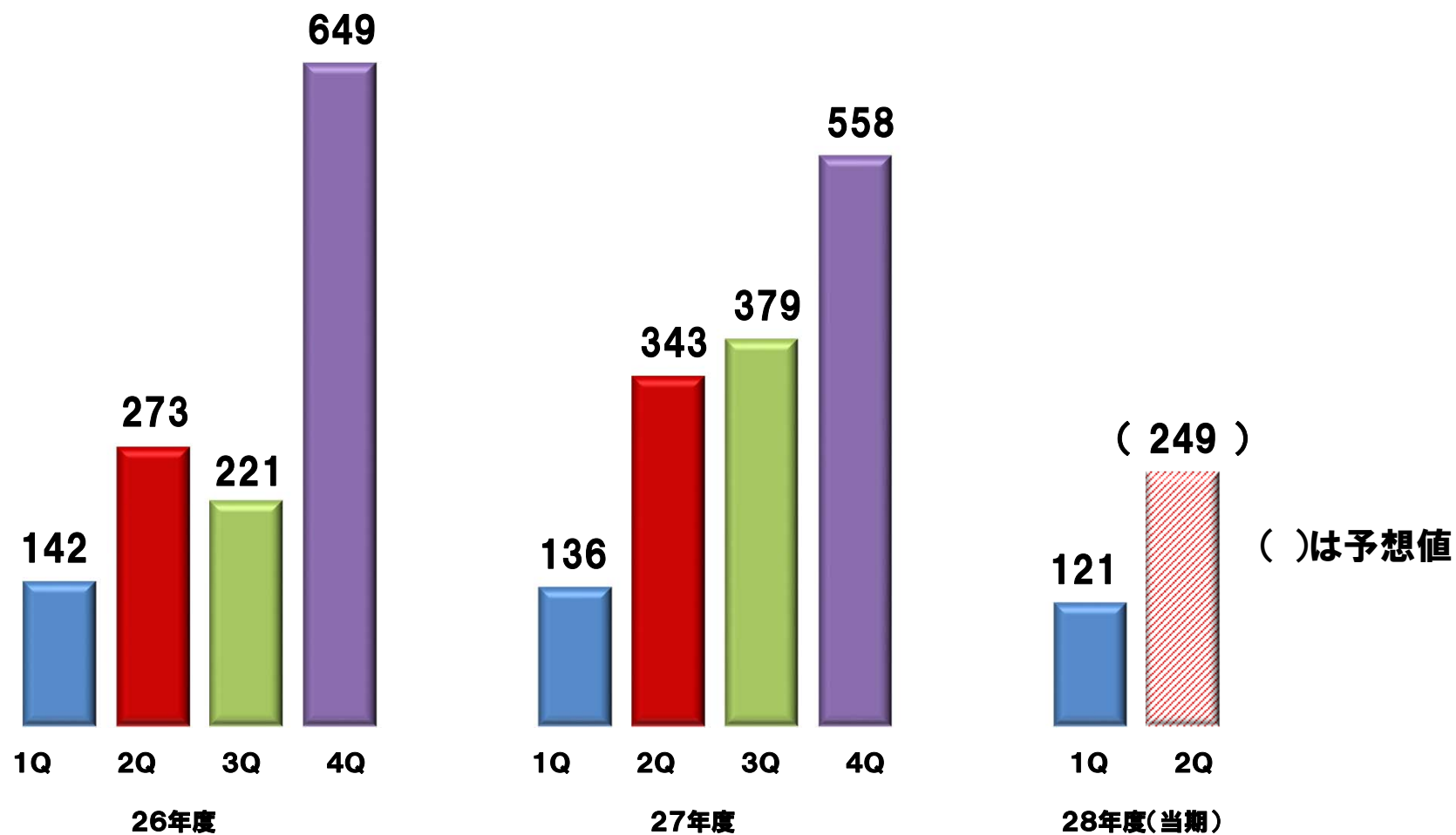
対前年同期比+24.3%



四半期別経営成績（経常利益）



（単位:百万円）



貸借対照表及び損益計算書(要約)



貸借対照表

(単位:百万円)

	前期 28年3月末	当期 28年6月末	増減額
(資産の部)			
流動資産	12,976	12,645	△330
固定資産	5,675	5,608	△66
有形固定資産	3,115	3,074	△41
無形固定資産	391	360	△30
投資その他の資産	2,168	2,173	5
資産合計	18,651	18,254	△397
(負債の部)			
流動負債	2,923	2,755	△167
固定負債	3,267	3,234	△33
負債合計	6,191	5,989	△201
(純資産の部)			
株主資本	12,003	11,792	△210
その他の包括利益累計額	456	471	15
純資産合計	12,459	12,264	△195
負債純資産合計	18,651	18,254	△397

損益計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期 27年4月1日 27年6月30日	当第1四半期 28年4月1日 28年6月30日	増減額 (増減率)
売上高	2,999	2,970	△29
売上原価	1,834	1,845	10
(売上原価率)	(61.2%)	(62.1%)	(+0.9%)
売上総利益	1,164	1,125	△39
販売費及び一般管理費	1,040	1,035	△4
(販管費率)	(34.7%)	(34.9%)	(+0.2%)
営業利益	124	89	△34
(営業利益率)	(4.1%)	(3.0%)	(△1.1%)
営業外収益	17	35	17
営業外費用	5	2	△2
経常利益	136	121	△14
(経常利益率)	(4.6%)	(4.1%)	(△0.5%)
特別利益	—	0	0
特別損失	3	0	△2
税金等調整前四半期純利益	133	121	△11
法人税等	97	94	△3
四半期純利益	35	27	△8

平成29年3月期業績予想(修正なし)



- ・ 主力の環境・プロセス分析機器は、国内では総量規制時に導入した機器のリプレイス需要の拡大、海外では中国向け環境水質計は今後も需要が見込まれる。
- ・ 科学計測機器は新型製品Xシリーズにより回復が期待される。
- ・ 当期連結業績予想は、現時点では平成28年5月10日に公表の第2四半期及び通期の業績予想の修正はなし。

(単位:百万円)

	H28.3 実績	H29.3 予想	増減	
			金額	%
売 上 高	14,326	14,500	174	1.2
営 業 利 益	1,367	1,200	△ 167	△ 12.2
経 常 利 益	1,418	1,300	△ 118	△ 8.3
当 期 純 利 益	931	900	△ 31	△ 3.3

1. 中国市場 新市場開拓戦略

(1) 北京牡丹調印式



平成28年4月23日、「北京牡丹聯友環保科技股份有限公司」とVOC（揮発性有機化合物）排出規制に適応した測定器の技術協力及び販売提携に合意し、北京市内の釣魚台国賓館で調印式を執り行いました。

(2) NHK BS1 放映



北京牡丹との契約調印式や当社の取り組みが、去る5月25日放送のNHK BS「キャッチ!世界のトップニュース」の特集番組「日中企業提携の最前線」で報道されました。

2. 営業推進本部設置(7月1日付け)による国内営業戦略強化策

国内営業本部に加え、全国の情報ネットワークでの営業展開を図ることで国内営業を強化し、国内シェア拡大を確実にものにしてまいります。

1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

＜お問い合わせ＞
東亜ディーケーケー株式会社
経営戦略部 経営企画課

電話：03-3202-0242
メール：ir@toadkk.co.jp
URL：<http://www.toadkk.co.jp/>